まちのニュース OAMISHIRASATO NEWS

町内の話題をお届けします

踊りや花火で夏を彩る

地曳きまつり

▶フィナーレを飾った打ち上げ花火

▲よさこいソーランの演舞

恒例の地曳きまつりが、8月11日に白里中央海岸で開催されました。

今年はぼさま踊り、大網白里音頭、よさこいソーランなど多様な踊りを中心に構成。踊り手は、浴衣や仮装など華やかな装いに身を包み、まつりを盛り上げました。

姉妹町の中之条町からは、総勢50人が来町し、伝統芸能の「八木節」を披露したり、「ぼさま踊り」に参加したりして、町民同士の交流を深めました。

また、幼稚園・保育園児が砂山の高さを競う「砂やま遊び」や、メッセージを添えて花火を打ち上げる「メッセージ花火」も実施。まつりのフィナーレには、例年を大きく上回る約2千発の花火が、夜空を彩りました。

＜砂やま遊びの結果＞

▼優勝＝ぶどうチーム（大網幼稚園）

▼準優勝＝ダイニレンジャーレッド（第2保育所）

▼第3位＝白里チェリーズ（白里幼稚園）

自然災害に備えて

土のう積み訓練

▲改良積み土のう工法を学ぶ参加者

自然現象による洪水・高潮等により災害が発生したとき、人命と財産を守り、被害を最小限にとどめるためには、地元市町村や消防機関の果たす役割が大きいことから、水害に対して迅速かつ的確に対応できるよう、山武郡市水防連絡会主催の水防訓練が、7月25日、町浄化センターで行われました。

訓練には、山武土木事務所、南消防署、千葉県建設業協会山武支部、管内市町等が参加。大雨により河川が増水し、堤防が決壊する恐れがあることを想定したもので、参加者は、指導員の説明を受けたあと、3班に分かれ、土のうを作り、改良積み土のう工法と呼ばれる水防工法で、約7mの土のうの堤防を完成させ、いざというときに備えました。

江戸時代にタイムスリップ

ようこそ寺子屋へ

▶縣神社の境内で行われたスイカ割り

▲昔の遊びを教わる子どもたち

昔の遊びや書道・剣道などを通じて子どもたちに交流を深めてもらうとともに、環境問題や郷土の歴史にも関心を持ってもらおうと、7月21日、金谷郷の法光寺と縣神社を舞台に「ようこそ寺子屋へ」が行われました。

このイベントは、東金市の市民団体「ふるさと支援協議会ひとのわ」が主催し、町内外から41人の子どもたちが参加。子どもたちは、江戸時代にタイムスリップしたとの設定で、侍や火消し、町奉行などから、ゲームや書道・剣道などの指南を受けました。

また、地域の人たちの協力で、竹馬やおはじきなどの、昔の遊びを教えてもらったり、おにぎりや、とれたての野菜が振る舞われたりと、楽しみながら郷土文化を体験。子どもたちからは「昔の遊びはゲームより難しいけど、おもしろかった」、「みんなと協力して遊べて楽しかった」などと感想が聞かれました。

アスリートの星たちが全国へ

▲齋藤さん（左）と榛澤さん（右）

大網中陸上部の榛澤聖子さん（3年）と増穂中陸上部の齋藤佑以加さん（2年）が、「関東中学校陸上競技大会」と、「全日本中学校陸上競技選手権大会」への出場を決めました。

榛澤さんは「全日本中学校通信陸上競技大会千葉県大会」の200メートルの部に出場し、25秒76（3位）を記録。齋藤さんは「千葉県中学校総合体育大会」の800メートルの部に出場し、2分16秒（1位）を記録して、それぞれ全国への切符をつかみました。

7月30日には金坂町長に出場を報告。齋藤さんは「記録を出せたのは周りの人たちのお陰。感謝の気持ちを忘れずがんばりたい」、榛澤さんは「練習してきたことを、すべて出し切りたい」とそれぞれ意気込みを話しました。

なお、「全日本中学校陸上競技選手権大会」では榛澤さんは予選敗退、齋藤さんは準決勝で敗退。「関東中学校陸上競技選手権大会」で榛澤さんは5位、齋藤さんは2位に入賞しました。

みんなの力で大会4連覇

瑞穂小学校体操部

山武郡市小学校体操競技大会が、7月25日、増穂北小学校を会場に行われ、瑞穂小学校が、男女総合優勝で、見事、大会4連覇を達成しました。

この大会は、山武郡市内の各小学校の体操部が、マット・鉄棒・跳び箱の3種目で得点を競い合うもので、選手たちは、緊張することなく、落ち着いた様子で演技を披露していきました。

体操部の石井浩人先生は、「連覇していることで、子どもたちの意識が高くなっている。先輩たちから引き継いでいるという思いも強く、一生懸命練習に取り組んできた結果だと思う」と子どもたちのがんばりをたたえました。